

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0471400226
法人名	有限会社 庄司ケアサポート
事業所名	グループホーム日和
所在地	宮城県東松島市赤井字台94
自己評価作成日	平成 21 年 8 月 20 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成 21 年 9 月 9日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

スタッフは、どんな時でも利用者様に寄り添い、いつも笑顔で需要、傾聴しつつ、日々安心して楽しく生活出来るよう支援しています。ひとり一人の思いを大切にし、自由で個性を活かし互いに協力し合い生活し又今年より往診して頂けるドクターともコンタクトがとれ大変感謝し毎日を安心して暮らしています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

広い庭に去年の日除けの parasol と違って、立派な日除けがつくられテーブルを囲んで、とうもろこしの皮を剥くなど入居者は、思い思いに作業をしており明るい笑い声が聞こえていた。この1年で、車椅子生活から歩行できるようになった人、又おむつが取れて自立排尿になった人など、職員の努力によるケアの実績などが紹介された。居間兼食堂には、日常生活や行事など職員も一緒に楽しんでいる風景写真が飾られていた。又「老後が一番幸せな時間になりたいと私たちは考えています」と、会報からは職員の気持ちが伝わってくる内容でした。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2 自己評価および外部評価結果（詳細）（事業所名 日 和 ）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着事業所となり更に昨年より、理念に対する在り方を話し合い、自分たちの目標としていつも目の届く所に掲げている。	開設当時の理念①優しさ②気配り③思いやりを基にし、その後地域密着型サービスとして位置づけられその運営方針(運営理念)として「地域社会との連携の中その役割を担う…」という思いが追加され共有している。	理念は行動規範であり実践に活かされて意味がある。振り返りを兼ねて1年に1回位は、皆で理念について話し合い、どう活かされていたかの確認もチームケアとして意味がある。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民として協力したり、隣家より畑仕事のアドバイス、花、野菜等頂き、庭でのお茶飲みに立ち寄り下さり、敷地内へ自由に出入り出来る雰囲気がある。	地域社会の一員として町内会にも加入し、町内会行事(夏祭り、花火大会、災害訓練など)にも積極的に参加している。又近所からは野菜の差し入れもありホームの家庭菜園の収穫と合わせて野菜はほぼ賄えるという。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営会議に地域住民の方にも参加頂き、その中で自宅での介護方法等に付いて質問あり一緒に考え取り組み現在どうか介護認定を頂き居宅での生活を楽しまれている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度の開催を行っているその中でサービスの実際、報告説明を事細かく行っている。又職員にも伝達し何に対しても前向きに検討している。	会議は、地域の人々の理解と協力を得て2ヶ月に1回開催され、市職員か地域包括支援センターの職員は毎回参加している。議題は防災の問題など幅広く、メンバーからの助言を頂くなど双方向性の会議になっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	会報等を作り届け事業所の実情を知らせたり、メールでもやり取りをし、様々な情報提供もして頂き、行事等にも参加頂き前向きな関係を築き協力を得ている	事業所と市の担当者の連携もよく、今回の外部評価にも市職員に立ち会って頂いた。日常的にも情報の交換がよく行なわれている。サービス強化加算やスプリンクラーも市の助言や助成を頂き設置する事になっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	介護方法により拘束をしなくても支援出来る事を職員は十分に理解し対応している。玄関の施錠は日中行うこと無かった。(開設当初より)又拘束時のマニュアルが有り職員確認している。	身体拘束は虐待であり、いいケアをすれば身体拘束は無い事を知っている。日中玄関に鍵は掛けている。利用者一人ひとりの外出の傾向等をつかんで対応している。近隣の方の見守りや声掛けなども出来ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎日入浴する事で体の異変異常の早期発見でき、職員も周知徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	機会を持ち話し合いをするよう心掛けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や改定等は十分時間を取り説明し署名捺印を頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族に対しては月一度の支払い又は随時対応している。利用者様の立場に立ち日々の生活の中から	意見は貴重な情報源として理解しており、家族の面会時や運営推進会議、家族会の催事など色々な機会にお話を聞いている。重要事項説明書には外部の相談苦情窓口や民生委員も第三者委員として委嘱されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一度ミーティング(会食)を夜勤者以外参加行い、日々の暮らしに付いての提案、改善策等検討行い、前向きに実行している。	ケアカンファレンスやミーティングで話し合い情報を共有しチームケアに励んでいる。職員の意見や提案なども取り入れ、踏み台をリハビリ体操に活用する等して、車椅子を使わなくてもよくなったりケアの効果をあげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得の為講習会を受けさせたり資格取得者には多少のペースアップと長期就業者にも積み立て等して向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ひとり一人の特性を出来るだけ伸ばし意欲を大切に後押しし、資格取得者もいる、又目標を持つことの大切さを日々話している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者共市町村を通じて連絡協議会を立ち上げ何度か活動に付いての会議を開催している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に見学して頂き、本人の希望されることに対し十分に傾聴し、不安を取り除けるよう側にいて、ゆっくりと関係作りに努めている。又入居時家族様に一緒のお部屋に泊まり過ごされることもある。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に見学して頂き、十分に説明をし、不安を取り除けるまでゆっくりと関係作りに努め、相談などにものり一緒に解決するよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人家族が来所した段階で、現時点での必要性を一緒に考えその後サービスの導入をさせて頂くよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に仕事作業等行い、教わったり助けられたりと支え合っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様が長期間の為家族様に助けて頂くことも多々あり良い関係作りを築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅に居たときに、行き来下さった方の来所も多く、何方がいらしても快くお出迎え出来るよう努めている。	認知症の方が安心できるのは、馴染みの人や馴染みの場所である。入居者の同級生や近所の友達が会いに来て、交流し易い雰囲気をつくるよう努めている。又行きつけのお店にも行き易いように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一番食事時の会話が楽しく盛り上がり、恋愛はなしに何故か発展している、又入居時家族様で同士で外食される事もある。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も此方に来たと立ち寄って頂き、昨年は夏祭りにも参加し本人の様子等聞かせて頂き、何か支援出来そうな事が有ったらとの声掛に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時は利用者様と現在そして今後につき、ゆっくりと考えを話して頂き家族様とも検討している。	個別ケアであり一人ひとりの思いや、暮らし方、希望、意向の把握に努めている。個室でしんみり話し合ったり、お風呂でくつろいでいる時や日常生活での何気ない会話などから、情報を把握し整理し共有し活用している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴を大切に、今まで行き来されている親戚等に、何か変わりごとが有る度、自ら出向き交流されている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日午前中バイタル測定を行い体調確認し、自分なりに一日の過ごし方の希望を伺い対応特になくときは此方から声掛相談し一緒に考え出来そうな事を無理せず行うようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の希望を中心に、家族様ともゆっくり話し合い、少しでも現状維持、若しくは向上出来るようアイデアを出し三ヶ月に一度全スタッフ参加し計画作成している。	ケアプランは、本人家族の思いや意見を聞き、医師や関係者で話しあい、個別具体的、長期短期に目標を立て家族の同意を得ている。月1回はモニタリングをし、必要があればその都度見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の暮らしの中で本人が出来そうな事には随時対応実践し、ケース記録に記載又、気づきノートを用意情報を共有工夫している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族を取り巻く個々のニーズに柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	時折近所の方も散歩がてら立ち寄り、一緒に茶飲みをしたり、保育所の子供達等も顔お出したり、又町内会の衛生担当者の方がウエスを持って来て下さったりと、協力して頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	緊急時に備え今年より近所の医院にも係り付け医になって頂き、随時連絡指示を頂き対応している。	本人や家族の理解と同意を得、近所の医院をかかりつけ医にお願いし、緊急時を含めきめ細かな指導を頂いている。受診の際は、連絡ノートで症状等を伝え、その結果は事業所、家族、医師と情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常時バイタルを取り異常の早期発見努め個々の利用者に適切な対応出来るよう随時係り付け医に連絡取り合い支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ここ一年入退院される方は無かったが、そのような事が有った時には情報提供行い、適切に対応支援する。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族とは事あるごとに話し合い、係り付け医と連絡を取り全スタッフで支援に取り組んでいる。	馴染みの関係ができ、神経系の病状で入院を進められても、入居者の意思で入院を断って最後を皆で看取った方もいた。入居者には早い時点から安心して生活出来るよう、重度における対応(看取り介護)の指針を作り説明し同意を得ている。	病状によっては、本人や家族の思いは揺れ動く心配がある。その都度安心と納得が得られるよう話し合い、言葉だけでなく意思確認書を作成し、思いを共有して最善を尽くして頂きたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時対応マニュアルを整備周知し、スタッフは随時目を通して頂いている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	会議で区長様より避難場所等のアドバイス頂き災害緊急のマニュアル確認更に地域住民にも避難訓練の参加呼びかけ協力体制を築いている。	緊急時のマニュアルは作成しており、避難訓練も夜間想定を含めて年2回は実施している。夜間想定訓練には地域住民の参加も見られる。非常用の食糧や水等の備蓄もしている。又スプリンクラの設置も予定されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ひとと言一言に十分傾聴し、真剣に目を見て優しく穏やかに、人格を尊重し言葉掛け対応している。	職員の言葉や態度は穏やかで、入居者の呼び名は本人に聞いて性で呼んでいる。排泄の誘導などの声掛けは、羞恥心等に配慮して慎重に対処している。個室の出入りは声をかけ本人の了解を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ホーム等の行事にも利用者様の意見を反映させ、その結果先日は近くの公園に行き、入居者様行付けのそば屋さんに全利用者スタッフで楽しんで来ました。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の希望重視で急な思いつきにも出来るだけ対応支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の入浴、定期的に訪問美容も活用自分なりの髪型にもこだわり、外出時には化粧もしっかり、もちろん身だしなみにも気配り支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの畑より新鮮な野菜をお収穫し毎日の料理に使用、利用者様と共に準備調理し美味しく食している。	入居者は食事が楽しみで、美味しく食べ易く、栄養のバランスに気を使われている。食事前の嚥下体操をしたり、収穫した野菜を職員と一緒に調理したり、職員も一緒に同じものを食べて和やかな昼食会であった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	調理師を中心に一日の栄養バランスを考え身体状況に応じ、医師より指示頂き、減塩等注意する事により、利用者様月二回の体重測定も大きな変化見られず。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ほとんどの利用者様は進んで、又声掛介助の方も毎食口腔ケア行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方を尊重しつつ時間を見て誘導を行い、失敗されてもさりげない対応で、自尊心を出来る限り傷つけないよう支援している。	排泄の自立は、尊厳や生きる意欲につながると言われている。今までおむつをしていた方が、活性炭素のパットを使い、その人の排泄パターンやサインを見逃さず、トイレ誘導をする事でおむつが取れた方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事のバランスを考え献立を工夫し個々に合わせ食材を柔らかくし、きざみ、とろみ等で対応し腹筋を出来るだけ使うよう食事前の声だし等を行い又排便コントロール対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は皆様大好きでその方の希望に合わせてゆっくり入って頂けるよう支援している。	入浴は、衛生的な観点だけでなくQOL(生活の質)の向上としても見直されてきた。これまでの生活習慣や好きな時間に、気持ちよく癒しの効果が期待できるよう、これからもお願いしたい。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯は九時なのでそれまで自由に過ごされ個々に気分良く睡眠され、昼夜逆転もなく穏やかである。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋が変わった時は常時申し送り等で伝達し副作用にも注意を払い症状の変化の早期発見に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれに合った生活を楽しんで頂いている。(自由な喫煙、散歩、買い物等)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望により、定期的に自宅に戻られる方、ホームに家族を呼び過ごされ食事を共に楽しまれる方々、又毎日のドライブも進んで参加され大変意欲的に過ごされている。	外にどれだけ出られるかは、事業所の選択材料の一つと言われている。ホームでは、毎日でも出られるよう支援している。買い物、外食は出来るだけ馴染みの店でしている。又ドライブも河南、河北、矢本、渡波などの観光施設も喜ばれている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	それぞれに多少のお金も所持され美容院(訪問)等にはご自分でお支払いされている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	親戚等より贈り物をされた時など、早々に電話、手紙を出すよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内はバリアフリーで手すりを設置し椅子はその方に出来るだけ合わせ、ホールの壁には写真等は、楽しい雰囲気作りをし、不具合時は一緒に考え相談し合い少しでも心地よく過ごせるよう支援している。	皆がくつろいでいる居間兼食堂は、吹き抜けの天井からの柔らかい光線も入り明るい。朝夕換気も行なわれ臭気や空気の澁みも感じられず、温度や湿度も管理されている。特に冬の湿度については気を使っている。全体に清潔であり居心地のよさが感じられた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれが自ら考え気分不快時は庭に出て畑を眺めたり隣の奥さんと会話などしコントロールされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時馴染みの物で取りそろえ、お位牌等も持参されている。	安らぎのある居場所になるよう、今まで使用していた身の回りのものや馴染みのものを、持ってきて頂くよう家族にお願いしている。居室には家族の写真、机、テーブル、整理筆筒、テレビ、位牌などが持ち込まれていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ひとり一人の身体、精神状況を把握しこえかけ行き、意欲を大切に出来ることは自分自身で行って頂くよう支援している。		